

沖縄総合事務局

1 農畜産物の最新の生産状況

○ さとうきびは平年を下回る、マンゴーは過去最高の見込み

さとうきびは、5月の台風6号、7月の9号、12号、8月の13号、15号により倒伏、葉片裂傷及び折損の被害が発生。また、大東島地方では、台風12号の降水量が少なかったことから潮害が発生。なお、7月1日時点の見込みでは、県全体の生産量は平年を下回る74万tであるが、その後の相次ぐ台風の襲来により、さらに低下することが考えられる。【参考：(前年)69万t、(平年)75万t】

マンゴーの生産量は、果実肥大が順調に推移したことと、収穫面積が増えたことから、過去最高の1,961tの見込み。【参考：(平年)1,561t】



【台風15号の被害写真(石垣市)】

2 攻めの農林水産業の展開に関する最新の動き

○ 「ぐしちゃんいも(紅芋)・いい菜(芋の葉)」を用いた地域活性化

八重瀬町では、国営地下ダムによる農業用水の安定確保を背景に、台風に強い紅芋の特産品にするため、紅芋の生産組合を設立。県内の菓子製造業や酒造業者に原料を出荷し、これらと連携して商品化を図るとともに、芋掘り体験を通じた交流人口の増加により、高齢農家の活動意欲・所得向上に貢献。

芋の葉は夏野菜「ぐしちゃんいい菜」として商標登録し、全農家がエコファーマー認定を受けブランド化に成功。いい菜を用いたレシピの試食会を毎年開催し、県内ホテルや学校給食に広く提供するほか、青汁商品向けに原料出荷。

今後は、芋の貯蔵施設の導入による計画・安定的な出荷体制の構築と、いい菜を用いたスヌージーや乾麺等の商品開発・販路拡大を目指す。

【実績(H16→H27見込)】 いも:4t→150t、いい菜:0t→40t、芋掘り体験:1,128人→10,000人



【ぐしちゃんいい菜(左上)、芋掘り体験(右上)、栽培圃場と組合代表の安里夫妻(下)】

3 「現場と共に解決する業務」の先行事例

○ 地域資源である薬用作物(ウコン等)の生産拡大

県内では、ウコン、クミスクチン等の薬用作物の生産が台風等により安定せず、近年の健康志向を背景に高まる安全・安心な県産原材料への需要に十分対応できていない状況。

25年度に局は薬用作物の生産拡大に向けた検討会を開催し、課題と対応方向を整理。これを踏まえて、昨年度から局内にプロジェクトチームを設け、南城市及び県内の生産・加工業者と連携し、講演会、相談会等を実施。

今年度は、南城市をモデル地区に選定し、7月に同市内の生産者、加工業者、観光関連事業者等と現地検討会を開催。引き続き、生産現場が抱える課題の解決と更なる実需との結びつきを図る講演会や現地検討会のほか、消費者や事業者にも広く薬用作物を紹介するパネル展を開催予定。



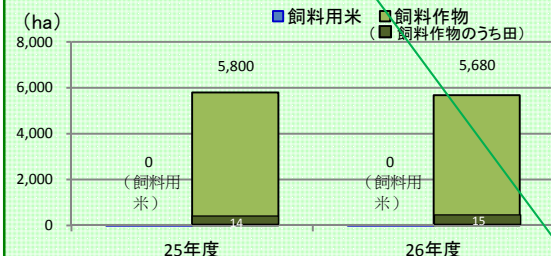
【ウコンとその栽培状況】



【現地検討会の様子】

【沖縄管内の「攻めの農林水産業」の進捗状況に関する指標】

○戦略作物の作付面積の推移(管内計)



(注) 1. 飼料用米の作付面積は新規需要米の取組計画の認定面積。(認定実績なし)
2. 飼料作物の作付面積は、面積統計の飼料作物のうち飼料用の面積。

○担い手への農地集積の状況(管内計)

H26年3月末: 11,414ha(集積率: 29.4%)
→ H27年3月末: 11,650ha(集積率: 30.1%)

○六次産業化法認定件数(累計)の推移

(H27年8月末現在)
H23: 23 → H24: 42 → H26: 54 → H27: 54

○新規就農者数の推移(各年度)

H21: 274人 → H23: 257人 → H25: 357人

○企業参入数(累計)の推移(各年12月末現在)

H22: 4法人 → H24: 15法人 → H26: 25法人